

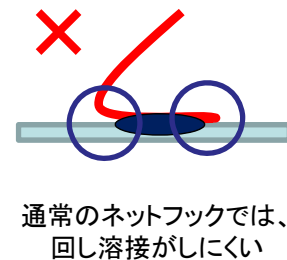
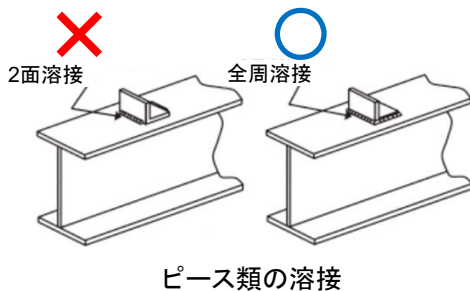
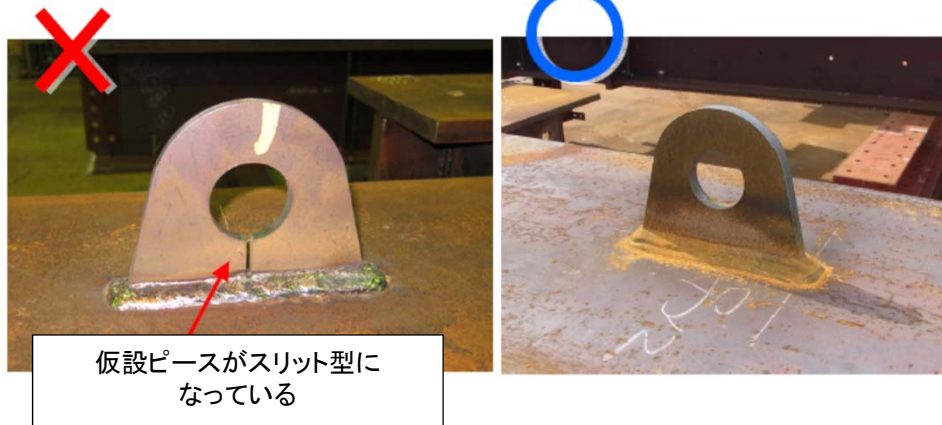
鉄骨工事 Q&A	溶融亜鉛めっき	仮設ピース	制定	2016年7月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. 仮設ピースが取付いた部材を溶融亜鉛めっきする際の留意点は？

A.

仮設ピースや取付ける溶接部に隙間があると隙間部分がめっきされずに、さびが発生する可能性があります。隙間のない仮設ピースを使用し、溶接端部は隙間のないように回し溶接をする必要があります。

例えば次のようなピースに留意しましょう。

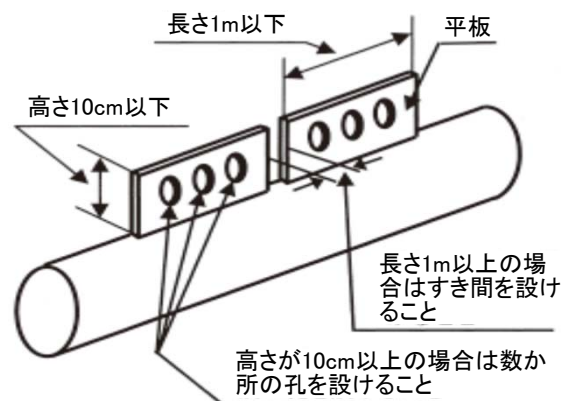


通常の吊りピースのようにスリット型になったものは使用しません。また、丸鋼を曲げたネットフックは曲げ部に割れが発生したり回し溶接がしにくいいため、写真のようなプレート型のものを使用するとよいでしょう。

曲げ加工品は溶融亜鉛めっき後に大きく変形する場合があるので、事前にめっきし変形がないことを確認する必要があります。また、仕上げ部材取付けガセットや屋根の母屋受けのように長い部材は長さを1m以下となるようにし、高さも10cm以下とすることが望ましいです。



ネットフックの例



ガセットプレートの取付け要領

出典：(一社)日本建築学会\_鉄骨工事技術指針・工場製作編、2018